



東地中海地域ニュース

モロッコ・アルジェリア：マグレブ・アル・カーイダの動向（6月3日付モロッコ紙）

3日付モロッコの「オージュールデュイ・ル・マロック」紙は、「イスラム・マグレブのアル・カーイダ（AQMI）」に対応するために、サヘル・サハラ地域各国の協力が不可欠である、と報じている。概要は以下のとおり。

1. サヘル・サハラ地域は、マグレブ・アル・カーイダの後方基地に変貌しようとしている。全ての世界中のテロ対策専門家は、同地域が新たなイスラム・テロ組織の温床になっていることに警鐘を鳴らす。新たなテロ組織は、ビン・ラーディンが創設したアル・カーイダの影響を受けているものの、行動様式や戦略において彼らとは異なる。
2. ビン・ラーディンの活動を引き継ぐ、というアルジェリア人サラフィストによる昨年の声明により、AQMI は、数ヵ月来、自らを、アフガニスタンでの敗退およびイラクにおける「2つの河の国のアル・カーイダ」の解体以後のアル・カーイダの活動を継承する世界で唯一の組織である、と称している。
3. 誰もがこの地域における AQMI の危険性を承知しているにもかかわらず、この問題に共同で対応するための戦略は全くない。それどころか、マグレブ諸国とサヘル諸国の間で調整や情報交換をする場すらない。専門家は、各国が早急に情報交換のためのプラットフォームを作るだけでなく、サヘル・サハラ一帯で活動し、モーリタニア北西からアルジェリア南部およびマリ北部を經由してチャド北部を攻撃しているテロ組織に対応するため、合同介入部隊を創設するべき、としている。
4. テロ組織は国境を容易に越えて活動するため、各国個別の取組みは非効率的である。ある国の軍事作戦により逃走したテログループが別の国に逃げ込んだとの情報を提供すれば、逃走先の国はあらかじめ部隊を強化することができるであろう。
5. 残念ながら、これらはアルジェリアの協力が得られないために不可能となっている。アルジェリアは、明確な理由も示さずに、対テロにおける地域各国との協力を拒否している。しかし、テロ組織は彼らの国で誕生し、主として彼らの国民の中からテロリストをリクルートしているのである。テロの恐怖に何十年も苦しみ、これを終わらせる意志を表明している国としては、これは奇妙な態度である。アルジェリアの指導者は、毎日報じられる凄惨な雰囲気慣れてしまったのであろうか。

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799